

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる



令和7年度
ふるさと島根寄附金活用事業成果報告書
～寄附金を活用した事業～

ふるさと島根寄附金を通して島根県をご支援いただきありがとうございます。

いいけん、
島根県

★令和7年度は 882件、61,840,812円の寄附をいただきました。

多くの方からご寄附をいただき、誠にありがとうございました。

いただいたご寄附は島根県の課題解決のために活用させていただきます。

引き続き、島根県へ応援をよろしくお願いいたします。

I 活用成果の概要

寄附メニュー	寄附を活用した事業費	令和7年度寄附額	頁
産業の振興	41,324千円	1,119,000円	2
自然環境の保全	2,431千円	1,558,000円	5
医療・福祉の充実	6,869千円	4,977,414円	6
教育・文化の振興	29,842千円	21,605,000円	11
子どもの読書活動の促進	19,292千円	1,593,000円	17
竹島の領土権の確立	9,292千円	2,513,500円	19
森林の保全及び整備	4,571千円	507,000円	20
防災対策の推進	500千円	347,798円	21
移住・定住の促進	56,409千円	972,000円	22
結婚・出産・子育ての支援	699千円	1,388,100円	27
災害への応急対応及び復旧	83,200千円	428,000円	28
島根かみあり国スポ・全スポ	53,070千円	21,174,000円	29
指定なし(※)	- 千円	3,658,000円	-
合 計	307,499千円	61,840,812円	

いただいた寄附金は、ふるさと島根基金に積立て、令和7年度の事業に一部を活用させていただきました。

寄附額が目標額に達しなかった場合は、これまでに積み立てた基金から不足額を補い、目標額を超えた場合は、次年度以降に活用します。

※「事業の指定なし」分は「移住・定住の促進」に配分

Ⅱ 寄附金を活用して実施した事業の成果

1 産業の振興

【対象事業】

- (1) 未来へつなぐ工芸品総合振興事業（伝統的工芸品展出展支援事業）
- (2) 地域IT人材育成・確保強化支援事業

【事業の概要及び事業費】

- (1) 未来へつなぐ工芸品総合振興事業（伝統的工芸品展出展支援事業）

【事業費：1,239千円（うち寄附金600千円）】

東京都及び大阪府で開催される伝統的工芸品展に島根ブースを設け、首都圏及び関西圏の消費者に島根県の伝統的工芸品のPRを行うことで、県内の工芸品の販路拡大を推進しました。

【大阪会場：阪急うめだ本店（大阪市）】

開催日：令和7年9月10日（水）～令和7年9月15日（月）

出展者：○伝統的工芸品製造事業者

・石州和紙（石州和紙協同組合）

○島根県ふるさと伝統工芸品

・出雲めのう細工（株めのや）・火の川焼（松江陶苑）

・長浜人形（渡辺真奈美）・松江彫（福田利浩）

・八雲塗（山本漆器店）



（石州和紙）



（出雲めのう細工）



(火の川焼)



(長浜人形)



(松江彫)



(八雲塗)

【東京会場：松屋銀座（東京都中央区）】

開催日：令和8年2月18日（水）～ 2月23日（祝・月）

出展者：○伝統的工芸品製造事業者

・石見焼（石見陶器工業協同組合）

○島根県ふるさと伝統工芸品

・火の川焼（松江陶苑） ・松江彫（福田利浩）

・長浜人形（渡辺真奈美）



(石見焼)



(松江彫)



(長浜人形)

(2) 地域IT人材育成・確保強化支援事業

【事業費：40,085千円（うち寄附金1,900千円）】

将来の県内IT産業を担う人材を育成するため、県内の教育機関と県内IT企業が連携し、県内IT企業のニーズに沿った実践的なITスキル習得のための授業を実施するとともに、学生と県内IT企業の交流機会を提供することで、学生の県内IT企業への就職を促進する取り組みを行いました。

「県内教育機関連携事業（島根大学高度IT人材育成事業）」

島根大学総合理工学部と連携し、県内IT産業の持続的な成長と活性化に必要な高度IT人材の育成と県内就職促進のための取組として島根大学の授業「システム創生プロジェクト（イノベーション創出型）」を実施しました。

（参加学生115名、参加IT企業4社、参加非IT企業4社）



(成果発表会の様子)

2 自然環境の保全

【対象事業】

宍道湖・中海賢明利用推進事業（水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業）

【事業の概要及び事業費】

【事業費：2,431 千円（うち寄附金 1,031 千円）】

自然豊かな宍道湖・中海への関心を深めてもらうとともに、水質保全等の環境意識を高め、ラムサール条約の柱である、保全再生、賢明な利用（ワイズユース）、環境教育・交流・普及啓発の事業を実施しました。

なかでも、宍道湖・中海に触れて、現状を体感してもらうことにより、水辺に親しを持ち、両湖への関心と、水質保全等の環境意識を高めることを目的として「水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業」を実施しました。

「水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業」

① 湖沼環境モニター（五感）調査

宍道湖・中海の水環境を身近に感じてもらうため、周辺住民の参加により、人の五感指標（見る・聞く・におう・味わう・触れる）を用いて湖沼環境を評価する「湖沼環境モニター」事業を実施しました。（モニター数 90名）



（湖沼環境モニターによる調査）

② みんなで調べる宍道湖・中海流入河川調査

小中学校や公民館等で宍道湖・中海へ流入する河川の水質等の調査を行ってもらい、学習発表会やポスター作成などの優秀な取組を行った団体を表彰しました。

（参加団体 30）



（流入河川調査における出前授業）

3 医療・福祉の充実

【対象事業】

- (1) 患者サービスの質の向上に係る環境整備事業
- (2) がん関連図書整備事業
- (3) がん患者社会参加応援事業（医療用ウィッグ等購入経費助成事業）
- (4) ハンセン病の隔離の歴史と人権を学ぶ国立療養所訪問事業
- (5) 戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業
- (6) 障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）
- (7) 障がい者芸術文化活動支援事業

【事業の概要及び事業費】

- (1) 患者サービスの質の向上に係る環境整備事業

【事業費：899千円（うち寄附金800千円）】

県立中央病院の以下の医療機器等の更新を行い、より安全な医療の提供が可能となりました。

① 慈大式（じだいしき）彫骨器の新規購入

内視鏡下鼻副鼻腔手術の際に使用する器械です。
従来の器械では工夫が必要だった部位の手技も、
簡易に行うことが可能となりました。



（慈大式（じだいしき）彫骨器）

② プリズムバーの更新

視能検査で使用する器械です。
購入から10年以上が経過し、レンズ面に傷や
汚れがあるため更新が必要な状況でした。



（プリズムバー）

③ 瞳孔間距離計の更新

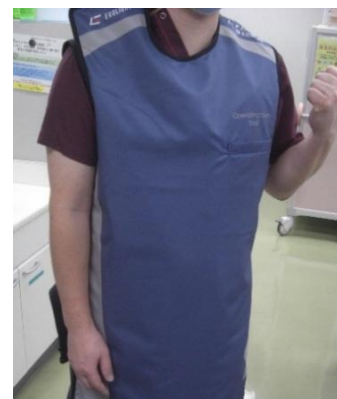
眼鏡処方の際に行う検査で使用する器械です。
当院保有の器械は購入後10年以上が経過し、
ゴム製の鼻パッドが経年劣化でひび割れする
などで更新が必要な状況でした。



(瞳孔間距離計)

④ 放射線防護衣の更新

内視鏡診療でX線を併用する治療の際に、
医療従事者が着用するものです。
経年劣化により防護機能の低下がみられ、
更新が必要な状況でした。



(2) がん関連図書整備事業

【事業費：100 千円（うち寄附金 100 千円）】

がんに関する知識の普及を図るため、がんの一般知識、治療等に関する図書等を
購入し、県立図書館に設置しました。令和7年度は、がんの最新情報が掲載された
新刊図書を39冊購入しました。また、10月に「がん検診受診率向上キャンペーン」
の一環として図書館で実施したパネル展示を通して、がんに関する図書を紹介し、
多くの方にがん情報に触れていただく機会となりました。



(県立図書館でのパネル展示)

(3) がん患者社会参加応援事業 【事業費：3,593千円（うち寄附金2,100千円）】

県のホームページや県内のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターなどで広報を行い、幅広い年代の方にご活用いただきました。

【内訳等】

件数 211件（ウィッグ175件、補整下着36件）

補助額 3,593,000円

※2万円を上限とし、購入金額の1/2を助成

事業開始(H29年度)以降、申請件数は年々増加しており、助成を受けられた方からは「元気が出た」「とても助かる」などのご感想をいただいています。

この事業が広まるとともに、がん患者の就労等の社会参加の促進や療養生活の質の向上に寄与していると考えます。



(4) ハンセン病の隔離の歴史と人権を学ぶ国立療養所訪問事業

【事業費：585千円（うち寄附金200千円）】

令和7年度は、公募による参加者52名が国立療養所長島愛生園（岡山県瀬戸内市）を訪問しました。学芸員から説明を受けながら同園歴史館、史跡見学のほか、ハンセン病回復者の方からお話を聞く機会を設けました。

参加された多くの方々から、「今回の学びを周囲の方に伝えていきたい」、「家族にも研修の内容を伝えたい」、「自らの学びを一層深めたい」などの感想が寄せられました。

訪問を通して、感じられたこと、考えられたことが正しい知識と理解に繋がっていく機会となりました。また、参加された方が他の普及・啓発事業にも関心を持って参加されるなど、ハンセン病問題の理解を深めていただくことができました。

【実施日等】

令和7年7月29日（火）出雲・松江発

令和7年8月 5日（火）浜田発



(5) 戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業

【事業費：140千円（うち寄附金140千円）】

県内の戦没者遺族会が設置する孫・ひ孫等で構成される会（以下「孫・ひ孫等の会」と言う。）が行う、語り部養成研修会開催事業及び語り部等継承活動に係る事業に対し必要な補助を行い、もって戦争を経験していない世代へ戦争体験を継承し、戦争非体験者に語り継ぐことを目的としたものです。

① 孫・ひ孫等の会が開催する語り部養成研修会関係

孫・ひ孫等以外のベテランの語り部が講師となって、戦中・戦後における体験談を話しつつ、語り方や伝え方の技術指導を行い、受講者（孫・ひ孫等）の語り部としてのスキルアップを図りました。

日時・場所：令和7年5月24日 雲南市大東地域交流センター（研修室）

・令和7年9月20日 雲南市大東地域交流センター（和室）

② 孫・ひ孫等の会の会員が行う語り部など継承活動関係

孫・ひ孫等の会が学校等との連絡調整を行い、語り部として講話を行うもの（または、孫・ひ孫等以外のベテランの語り部が講師として出席の上、孫・ひ孫等はファシリテーターとして参画し受講者へ基礎知識の資料の提供・説明を行いつつ、語り部としてのスキルアップを図るもの）。受講者（児童）はベテランの語り部から様々な戦争体験を聴講し、平和の意義を学びました。

時期：令和7年5月～令和7年10月（計7回）

場所：雲南市内小学校（7校で実施）

令和7年度開催実績は以下のとおり。

西日登小学校（5月21日／9人）、大東小学校（6月13日／44人）、
三刀屋小学校（7月2日／36人）、斐伊小学校（7月2日／22人）、
木次小学校（9月12日／42人）、海潮小学校（10月21日／21人）、
寺領小学校（10月21日／16人）



（語り部養成研修会）



（学校等での継承活動）



(6) 障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）

【事業費：1,052千円（うち寄附金1,052千円）】

ヘルプマークのPRのため、フェイスブック広告・インスタグラムの配信を行い、効果的な周知に努めました。障がいの特性や必要な配慮を学び実践する「あいサポート運動」の啓発冊子にヘルプマークの意味や必要な援助を盛り込み、ヘルプマークへの理解を促進しました。また、障害者週間に合わせて「あいサポート運動」とヘルプマーク啓発用前幕をバス80台に掲載しました。

ヘルプマーク交付数 846枚

あいサポート研修回数 107回



(7) 障がい者芸術文化活動支援事業 【事業費：500千円（うち寄附金500千円）】

障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加を推進することができる文化芸術活動支援の体制づくりの一環として、作品集を作成しました。

県内の障がい者が制作したアート作品及び文化芸術活動促進に取り組んでいる島根県障がい者文化芸術活動支援センターを広く知ってもらうための広報ツールとして活用しました。

障がい者の作品や障がい者文化芸術活動に取り組んでいる事業所・団体等の情報が掲載されているため、県内の文化芸術活動を紹介するツールとして、関係機関等の情報共有や文化芸術作品のアーカイブとしても活用しています。



作成部数 900 部

配布箇所 出展者、事業所、アート作品展会場 等

4 教育・文化の振興

【対象事業】

- (1) 島根県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業
- (2) 島根県立美術館企画展示事業
- (3) 消費者教育実践研究事業
- (4) 世界を目指すアスリート支援事業
- (5) 県立高校屋内運動場への空調設備の整備

【事業の成果及び事業費】

- (1) 島根県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業

【事業費：2,420千円（うち寄附金1,000千円）】

開館20周年記念企画展「美術館がうまれて、それから」に併せて、石見美術館の歩み、収集してきたコレクション、調査研究の成果等を紹介する図録を制作しました。

島根県立石見美術館は、2005年の『コレクション選』以降、長年目録を制作していませんでした。しかし、20年間の活動で所蔵品が増え、調査研究により作品の価値も高まったことから、これまでの成果を広く発信するために新たな図録を制作しました。本図録には、約80点の作品図版に加え、全学芸員による解説、館長や担当学芸員の論考が掲載され、美術館の活動を多角的に知ることができる充実した内容となっています。この図録は展覧会会場で販売されたほか、全国の美術館などの博物館施設へも発送され、同館の20年のあゆみとコレクションを広く伝える機会となりました。



- (2) 島根県立美術館企画展示事業

【事業費：1,092千円（うち寄附金1,092千円）】

「島根の工芸（石見長浜焼・長浜人形）の特集展示」による鑑賞促進。島根ゆかりの美術作品について県民によりよく知っていただき、郷土への誇りと愛着を醸成する機会としました。

特集展示「島根の工芸 石見長浜焼・長浜人形」

会 期：令和8年1月15日～3月9日

会 場：島根県立美術館 展示室3

入場者：7,847名



本展ではかつて石見地方の特色ある産品として知られた長浜焼・長浜人形にスポットをあて、その豊かな造形世界を紹介しました。



(3) 消費者教育実践研究事業 【事業費：670千円（うち寄附金600千円）】

学校における消費者教育を推進し、広く普及させるするため、授業方法や教材の開発に関する研究を教員による教育研究会に委託して実施しました。また、教員向けの情報紙や生徒向けの教材を作成しました。

(1) 消費者教育に取り組んでいる教育研究会（2団体）に委託し、以下の成果が得られました。

① 島根県小学校家庭科教育研究会

「未来の消費生活を意識する金銭教育」をテーマに、6年生の家庭科授業において、物や金銭の大切さと計画的な金銭管理に関する授業を実施し、修学旅行中のお土産の選択・購入機会での計画的な購入行動が実現しました。

② 島根大学教育学部消費者教育研究会（附属義務教育学校）

「消費者の役割、消費者被害を中心にした授業開発」をテーマに、前期課程（小学校）では修学旅行中の金銭管理とお土産選択・購入に関する授業を、後期課程（中学校）では消費者被害の予防と対策に関する授業をそれぞれ実施し、適切な消費行動への意識が高まりました。



(2) 消費者教育情報紙「すくすく消費者」の配布

上記(1)の研究実践事例、教員研修会、出前授業、消費者問題講座等の情報を掲載。

県内小中学校、高等学校、特別支援学校へ配布し、教員研修や出前授業等の多様な情報を提供し、各学校の消費者教育の充実化を支援しました。



(4) 世界を目指すアスリート支援事業

【事業費：4,100千円（うち寄附金1,000千円）】

全国トップレベルで活躍している島根県のアスリートが世界を舞台に活躍するために更なるレベルアップを図るため、国内や国外での大会や遠征に参加するための経費を支援しました。

対象選手：26名(帯同指導者を含む)

<対象選手と実施内容>

① フェンシング

津森 志道 選手（法政大学4年）

- ・アジア選手権男子サーブル団体 優勝
- ・世界選手権男子サーブル団体 4位



② ライフル射撃

草場 胡美 選手（立正大学淞南高等学校3年）

2025年度ユース・ジュニア強化選手(T3)指定(上半期)



③ テニス

細木 咲良 選手（株式会社原商）

- ・W35 MONASTIR(チュニジア) (7/3～7/13)
女子シングルス 準優勝
- ・W35 MONASTIR(チュニジア) (7/14～7/20)
女子シングルス 優勝



④ カヌー

【アジアパシフィックスプリントカップ2025】

宮原 悠煌（出雲農林高校3年）

・U18 C-2.500m 優勝

松尾 夏帆子（出雲農林高校3年）

・U18 K-4.500m 4位

・U18 K-2.500m 6位

山下 柊大（島根中央高校2年）

・U18 K-2.500m 出場

・U18 K-4.500m 出場



【オリンピックホープスレガッタ2025】

矢野 来樹（出雲農林高校2年）

・U16 C-1.1000m DNS

・U16 C-1.500m DNS

上野 有象（島根中央高校2年）

・U16 K-1.1000m 予選敗退

・U16 K-1.500m 予選敗退

吉村 和虎（島根中央高校1年）

・U15 K-1.1000m B決勝8位

・U15 K-1.500m 予選敗退

【ICFジュニア&U23カヌースプリント世界選手権大会】

兒島 生知（立命館大学1年）

・U23 K-4.1000m 準決勝進出

植出 乙倭（島根中央高校3年）

・JWC C-1.200m 予選敗退

・JWC C-1.500m B決勝4位

行田 朋晃（鹿屋体育大学4年）

・ナショナルチームB指定

⑤ ホッケー

【AHF ユース アジア カップ 優勝】

吉岡 真大（横田高校2年）

古澤 知宙（横田高校3年）

上田 龍太郎（横田高校3年）



【AHF ユース アジア カップ 優勝】

栗原 莉来（横田高校3年）

【第4回 NHDP ミルナワンカップ 準優勝】

加納 天聖（横田高校3年）

渡部 温寛（横田高校3年）



【第14回FIHジュニアワールドカップ 14位】

戸屋 響哉（立命館大学1年）

西村 洸希（立命館大学2年）

【第11回FIHジュニアワールドカップ 11位】

景山 和葉（東海学院大学2年）

(5) 県立高校屋内運動場への空調設備の整備

【事業費:21,560千円(うち寄附金10,000千円)】

島根県立宍道高等学校の体育館へエアコンを設置することとし、令和8年度に予定する設置工事に向けて機器の購入を行いました。

①空調機(体育館用エアコン)の購入

近年、猛暑が続いており、体育の授業等を行うにあたり熱中症の危険性が排除できないため、定時制の授業による体育館使用時間が長い宍道高等学校にエアコンを設置することとしました。



外気を空調するため換気効率は窓開け以上

外気を冷やし室内に供給するため、窓開け以上の換気が可能です。
換気の際にゴミや砂ぼこり、虫などが室内に入ってくるのを防ぎます。

競技への影響に配慮した吹出し風速

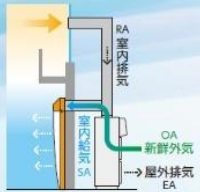
冷房時の吹出し口は無数の小さな孔になっており、低速で冷風を吹き出します。
風の影響を受けやすいバドミントンなども安心して競技に集中できます。

競技中の衝突に配慮した衝撃吸収構造

給気ユニットは競技者の安全性を一番に考えて設計しています。表面ビニールレザーと合板との間にウレタンを組み込み、クッション性を持たせています。

簡単設置で工事が短期間で完了

空調機は室内機と室外機が一体になっている構造のため、冷媒配管工事は不要です。
体育館内は給気ユニットの取り付けのみという工事量のため工期が短く、
年末年始やGWなどの大型連休を待たずして工事を行うことも可能です。



名称 フレッシュクール(日本ピーマック株式会社)

数量 6台

5 子どもの読書活動の促進

【対象事業】

- (1) ビブリオバトル島根県大会開催事業
- (2) おすすめしたいこどものほんの事業
- (3) 特別支援学校図書館教育推進事業

【事業の概要及び事業費】

- (1) ビブリオバトル島根県大会開催事業

【事業費：225 千円（うち寄附金 225 千円）】

県内の高等学校から8名の高校生が発表者として参加し、全国高等学校ビブリオバトル2025島根県大会を開催しました。当日は発表者それぞれが、読んで面白いと思った本を紹介し、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に、観戦者や運営スタッフを含む参加者全員の投票で「チャンプ本（最多票を集めた本）」を決めました。

この大会を通じて、開催の趣旨である「人を通じて本を知る。本を通じて人を知る。」というビブリオバトルの理念に基づき、読書活動を推進し、言語能力・コミュニケーション能力の向上を図る機会とすることができました。

【開催概要】

日時：令和7年12月13日（土）12:30～15:30

場所：島根県立大学松江キャンパス

大会参加者：約80名（発表者、運営スタッフを含む）



(2) おすすめしたいこどものほんの事業

【事業費：2,515千円（うち寄附金2,515千円）】

推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」（乳幼児向け、小学生向けの2種類）に掲載する本の選書、並びに図書の購入を行い、県民や図書館、学校等の団体に貸し出しました。また、市町村図書館、幼稚園、読み聞かせボランティア等の活動に役立てるために、県立図書館地域支援室と西部読書普及センターの2箇所にもリストに掲載された図書を整備し、4つの市町村で巡回展示を実施しました。

県立図書館では7月から9月の3か月間、子ども室前のスペースで「おすすめしたいこどものほん2025」の資料展示を行い、夏休み中の子どもたちに貸出・利用されました。

【購入冊数内訳】

- | | | | |
|--------------|----------|------|----------|
| ・ 県立図書館こども室 | 選書・貸出用 | 665冊 | |
| ・ 県立図書館地域支援室 | 貸出・巡回展示用 | 238冊 | |
| ・ 西部読書普及センター | 巡回展示用 | 172冊 | 合計1,075冊 |



(県立図書館での展示)

(3) 特別支援学校図書館教育推進事業

【事業費：16,552千円（うち寄附金300千円）】

特別支援学校の学校図書館としての機能を整備し、幼児児童生徒の学習活動や読書活動の充実を図るため、本事業を実施しました。県内12校の特別支援学校では、在籍する幼児児童生徒の発達の段階や障がいの状態に応じた書籍を購入し、学校図書館の蔵書を充実させました。また、学校図書館の蔵書を充実させ、読書活動の充実に取り組んだ結果、文部科学省の子供の読書活動優秀実践校に選ばれました。（令和7年度表彰校：益田養護学校、令和8年度表彰校：松江清心養護学校）



(松江清心養護学校)

6 竹島の領土権の確立

【対象事業】

竹島の領土権確立に関する事業

【事業の概要及び事業費】

【事業費：9,293千円（うち寄附金4,000千円）】

竹島問題の解決に向けた国民世論の啓発を図るための広報啓発活動事業を実施しました。

①「竹島問題を考える講座」の開催

竹島問題への理解を深めるため、竹島問題の研究者等を講師に招き、一般向けの講演会を3回開催しました。

第1回 県竹島問題研究特別顧問 下條正男氏（益田市にて）

第2回 県竹島問題研究顧問 升田優氏（隠岐の島町にて）

第3回 県竹島問題研究会委員 永島広紀氏（松江市にて）



② 広報啓発資料等の作成

竹島問題の啓発を図るため、啓発資料や啓発用グッズ等を作成し配布しました。

○啓発グッズ（「竹島の日」条例制定20年誌5,000部、第5期「竹島問題に関する調査研究」最終報告書2,000部、リーフレット20,000部、トートバッグ 2,500枚、ボールペン2,500本、自由帳1,000冊、クリアホルダー2,500枚、缶バッジ4,000個等）

③ 竹島資料室の展示内容等の充実

○出張竹島資料室の開催（7月：雲南市、7月：隠岐の島町）

竹島資料室展示資料の出張展示（県内2会場）

○夏季企画展示の開催（7月17日～9月2日）

夏休み期間中に子供たちに向けた企画展示。

○竹島の日記念特別展示の開催（1月15日～3月31日）

「『竹島の日を定める条例』～条例制定20年を迎えて～」をテーマに特別展示。

○学生解説員の委嘱（6月15日～3月31日）

竹島問題の啓発に資するため、大学生5人を学生解説員として委嘱し、6月27日から3月31日までの毎週土曜（8及び9月は毎週木曜日、3月は金曜日も実施）、竹島資料室に来室された希望者に竹島問題についてスライドを使い解説を行いました。



7 森林の保全及び整備

【対象事業】

県民の森整備費（森林林業体験活動推進事業）

【事業の概要及び事業費】

【事業費：4,571 千円（うち寄附金 614 千円）】

県民参加の森づくり活動の一環として、気軽に参加できる講座を充実させて、県民が森林や自然とふれあう機会を創出しました。これにより県民が森林や林業に対する理解を深め、水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いでいく県民意識の醸成を図りました。

令和7年度は14回の県民の森ふれあい講座を開催し、登山や木工体験に延べ289人の参加があり、森林林業体験活動のフィールドとなる県民の森において、枯損木の除去や遊歩道の整備・修繕など環境整備を行い、景観の維持、訪れた利用者の安全確保と快適利用を図りました。



（新緑の指谷山ブナ林縦走）



（木のミニガチャマシーン作り）

8 防災対策の推進

【対象事業】

地域防災人材育成研修事業

【事業概要及び事業費】

【事業費：500 千円（うち寄附金 337 千円）】

地域の防災力向上に向けて、地区防災計画の策定を支援するためのワークショップを開催しました。

【地区防災計画策定に向けたワークショップ】

題目：一緒に助かるために～地区防災計画のススメ～

講師：跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授

内閣府地域防災力の向上を目指すアドバイザリーボード委員

鍵屋 一

日時：令和8年2月1日（日）9：00～12：00

場所：江津市役所会議室

参加人数：40人



9 移住・定住の促進

【対象事業】

- (1) ふるさと島根定住推進事業
- (2) 島根県グローバル人材育成支援事業
- (3) 多様な主体協働による地域課題解決の仕組みづくり事業

【事業の概要及び事業費】

- (1) ふるさと島根定住推進事業

【事業費：46,918千円（うち寄附金1,737千円）】

ふるさと島根定住財団を中心に、市町村や関係団体と連携し、移住相談イベントを実施しました。

- ① UIターンを希望する方向けに、
東京で対面型移住相談イベントを開催
【開催日】令和7年6月15日（日）
【来場者数】289人



- ② 島根県をオンライン上で訪問するツアー型移住交流イベント
「しまね移住体感オンラインツアー」を実施
【開催テーマ（参加者数）】
移住前後のギャップ（104人）
島根の交通事情（113人）
島根の気候（189人）



- ③ UIターンを希望する方向けの「移住フェア」、「しまね暮らし」の魅力や楽しさを伝えるための「しまね暮らしマルシェ」を同日開催

○大阪会場（グランフロント）

【開催日】9月28日（日）

【参加者数】1,707人

○東京会場（国際フォーラム）

【開催日】11月30日（日）

【参加者数】1,619人



(2) 島根県グローバル人材育成支援事業

【事業費：8,176 千円（うち寄附金 2,000 千円）】

海外留学や県内企業でのインターンシップ、セミナー等を組み合わせた地域独自のプログラムを通じて、地域活性化に貢献し、県内に定着する意欲のあるグローバル人材（グローバルかつローカルな視点を持った人材）の育成を図ることを目的とし、県内外の高等教育機関に通う学生で構成されるコミュニティメンバーの中から海外留学を希望する学生の留学費用の一部を支援するものです。

①留学支援

令和7年度は4名の学生の海外留学を支援しました。

所属	留学先	留学タイトル
島根大学	フランス	『とびだせ島根！島根の魅力を世界に向けて発信～島根の認知度向上のための調査とSNSの活用～』
島根県立大学	ドイツ	『内部改革で企業成長の限界突破！～経済、労働先進国ドイツで学ぶ未来の働き方～』
松江高専	デンマーク、トルコ、ペルー	『だれでもできる建築で島根を活気あふれる場所に～建築の民主化～』
龍谷大学	セルビア	『新たな魅力が生まれ続けるしまねづくり～スポーツ・ITの分野を活かすヒントを得るin Serbia～』



（留学開始前に、留学生による丸山知事への表敬訪問）

②コミュニティ活動

学生コミュニティ活動として、以下のとおり実施しました。

内 容	テーマ・内 容	講師・参加企業
キックオフランチ ミーティング (R7. 4. 28)	・ 事業概要、年間活動計画の説明	
第1回セミナー (R7. 7. 12)	テーマ「島根で一步踏み出したい 人のための座談会」	留学生OB
交流会・企業見学 【西部】 (R7. 9. 19～20)	・ 会社概要説明 ・ 現場見学	(株)松永牧場 若女食品(株) 浜田港振興会
第2回セミナー (R8. 1. 23)	テーマ「“海外×私～” 県大で叶 える国際交流～」	学生コミュニティ メンバー
企業見学【東部】 (R8. 3. 4)	・ 会社概要説明 ・ 現場見学	(株)キグチテクニクス 松江土建(株) (株)ミック



(第1回セミナー)



(浜田港振興会とのディスカッション)



(留学生 OB とのオンライン交流)



(企業見学集合写真)

(3) 多様な主体協働による地域課題解決の仕組みづくり事業

【事業費：1,315 千円（うち寄附金 1,315 千円）】

多様な主体の協働によって NP0 が地域課題を解決できるよう、市町村が NP0 の中間支援を行う「しまね県民活動支援センター（ふるさと島根定住財団）」や地域の中間支援団体、地元企業、学校等の関係者と協議して地域にあった解決策を構築し、県内外に情報発信することで共感を得て、県内外から寄附・参加等が得られる仕組みづくりを支援するための事業です。

① 地域課題解決の体制づくりの支援

地域課題解決に尽力する NP0（法人格によらず、社会貢献活動を行う団体）同士が交流し、意見交換や連携をすることで、単独の団体では解決困難な課題に取り組みました。一例として、交流会で知り合った団体同士が、ふるさと島根定住財団の事業を活用して、課題を克服し、事業を推進しました。



第1回：「出雲NP0交流会」（7/29）



第2回：「しまね福祉NP0交流会」（10/17）



第3回：「いわみNP0交流会」（2/17）

② NP0への寄附拡大に向けた情報発信体制の強化

情報発信の手段を増やすため、LINE及びFacebookにてNP0活動推進室のアカウントを作成しました。県内の社会貢献活動のポータルサイト「島根いきいき広場」と連携をして、同サイトから発信するメールマガジンや各種情報をLINE及びFacebookでも同時に発信できるような仕組みを整え、さらに初期の登録者数を増やすためにLINE及びFacebook広告を活用しました。



(LINE友だち数：1,003人)



(Facebook 友達数：422 人)

10 結婚・出産・子育ての支援

【対象事業】

しまね保育実習等旅費支援事業

【事業の概要及び事業費】

【事業費：699 千円（うち寄附金 504 千円）】

卒業後に島根県内での就職を促すとともに、ひいては子どもを安心して育てることができる環境整備を目的に、平成29年5月から事業を開始しました。

主に広島県、岡山県などを中心に、県外にある指定保育士養成施設の学生41名に対し、島根県内の保育所等で実施した保育実習、就業体験及びボランティアにかかる旅費を助成しました。

旅費を助成した41名のうち、令和8年3月に卒業の学生は、34名でした。

そのうち進路先が判明している22名のうち、13名の方が島根県内の保育所等に就職が決定し、現在各保育所等で保育士として活躍されています。

【事業内容】

- ・ 旅費助成：41名
- ・ 事業啓発用チラシ作成、郵送



しまね保育実習等旅費支援事業のご案内

島根県外で保育を学ぶ学生が、島根県内の保育所等で実習や就業体験・ボランティアを行う際の旅費を助成します。島根県内の保育所等や子どもたちの様子を実際に知る機会を提供し、就職のきっかけにいただくことを目的としています。

（※旅費助成対象）※この事業は、「ふるさと助成金」を活用して実施しています。

応募資格
島根県外の保育士養成施設（※1）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※3）

※1 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）
※2 保育所、認定こども園及び地域包括ケア施設
※3 1 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）
※4 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）
※5 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）

助成金額
保育士養成施設と保育所等の所在地域に応じて定額で助成します。なお、児童数に応じて助成金額が変更となる場合がございます。

保育所等の所在地域	1人あたり助成金額	1人あたり助成金額	1人あたり助成金額
島根県	6,800	8,400	8,400
広島県	6,800	10,500	11,500
岡山県	7,000	9,200	17,200
山口県	8,000	6,800	14,100
兵庫県	7,200	20,100	18,200

※1 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）
※2 保育所、認定こども園及び地域包括ケア施設
※3 1 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）
※4 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）
※5 児童福祉施設関係2年制課程（※4）に在学し、島根県内の保育所等（※2）で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。（※5）

申請方法
必要書類を保育実習等の実施終了日から1ヵ月以内に提出してください。

① 申請に必要の二次元コードを読み取りアンケートへご回答ください。
② 旅費の助成申請書兼請求書にご記入ください。
③ 保育士養成施設に在学していることがわかる書類（※6）を添付してください。

※6 保育士養成施設に在学していることがわかる書類（※6）を添付してください。

募集期間
令和7年4月14日～令和8年3月31日
※期間内に提出してください。
なお、申請状況によっては、募集期間の延長も場合があります。

利用者の声
交通費や食費が少なくなる。実習も楽しく、地域での保育実習に体験することができ、とてもいい経験になりました。

支援していただくことで、実習とあわせて地域に暮らしたいという気持ちも湧き出てきました。

お問い合わせ・募集要項
島根県社会福祉協議会（前橋黒瀬人村センター）
〒690-0011 松江市東津田町1741-3 しまねこ
TEL: 0852-32-9957 FAX: 0852-32-0956
https://www.shimane-fpo.com/practice

11 災害への応急対応及び復旧

【対象事業】

道路橋梁維持修繕事業

【事業概要及び復旧に関する事業】 【事業費：83,200 千円(うち寄附金 400 千円)】

異常な天然現象により発生した災害事象に対して、交通への影響、安全を確保するために対策を実施しました。

① 道路路面の清掃

大雨により、山から土砂が流れ出て、道路上に流出したことにより、交通に支障をきたしたため、路面清掃を実施しました。



(一般県道 跡市川平停車場線)

② 道路路肩部分の土砂撤去

大雨により、道路の路肩部分に土砂が堆積し、交通に支障をきたしたため、撤去を実施しました。



(一般県道 白上横田線)

12 島根かみあり国スポ・全スポに関する事業

【対象事業】

- (1) 国民スポーツ大会競技力向上対策事業（ジュニアアスリート強化事業）
- (2) 国民スポーツ大会開催準備事業（広報・機運醸成事業）

【事業概要及び復旧に関する事業】

- (1) 国民スポーツ大会競技力向上対策事業（ジュニアアスリート強化事業）

【事業費：34,380千円(うち寄附金500千円)】

県内小中学生の優秀選手に対する強化活動に係る経費の支援により、島根かみあり国スポ時に活躍できる選手の発掘及び育成を目指します。

県内で選抜された小中学生の県外遠征の実施や県外大会等及び県内での合宿への参加、指導者招請に係る経費を支援し、また、令和8年度に中学校1年生の年代となるジュニア選手を「かみありアスリートJr.」として指定しました。



(県外遠征時の選手達)



(指定証交付式:フェンシング)

- (2) 国民スポーツ大会開催準備事業（広報・機運醸成事業）

【事業費：18,690千円（うち寄附金500千円）】

2030年に開催される島根かみあり国スポ・全スポに、多くの県民の方にさまざまな形で関わっていただき、一緒に大会を盛り上げていくため、チラシや広報グッズの作成、イメージソングの音源・映像の制作等により大会の周知を図りました。

① 大会PRポスターの制作

障がいのある方とデザイナーの共創によって生まれた、「バディアートプロジェクト」により、大会PRポスターを制作しました。



② 大会イメージソングのMV制作

大会イメージソングの歌唱およびパフォーマンスを、島根スサノオマジック オフィシャルチャパフォーマンスグループ「アクア☆マジック」が担当することが決定し、そのMVを制作し、HPに公開しました。

③ 山陰中央新報新春紙面

令和8年1月1日に山陰中央新報の新春紙面として、見開き1ページの広報を行い、県内のスポーツチームの紹介や、①の大会ポスターのデザインとなる「バディアートプロジェクト」について紹介しました。

④ 広報・募金グッズの作成

ボールペンやトートバック、大会マスコットであるしまねっこのぬいぐるみなどの広報・募金グッズを作成し、各種イベント等で広報を行いました。



その他、HP、SNSや県民手帳、横断幕・懸垂幕などさまざまな媒体を使用して、広く県民の方々へ大会の周知を図りました。

誰もが、誰かの、 たからもの。

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい

それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない

互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる

そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は、

自分のサイズで、一生懸命生きる人を応援してくれる

未来への原動力

人が人のたからもの

誰もが誰かの応援団

いいけん、
島根県

いいけん 島根県

<https://www.ishimurajima.jp/ishimura-ken/>



「ふるさと島根寄附金」は「ふるさとチョイス」・「さとふる」からお申込みいただけます。
郵送またはFAXによるお申込みをご希望の場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。



 ふるさとチョイス
ふるさと納税総合サイト



 さとふる

【お問い合わせ先】

〒690-8501 松江市殿町1番地

島根県政策企画監室

ふるさと島根寄附金担当

TEL：0852-22-6840

FAX：0852-22-6034

E-mail：kifu@pref.shimane.lg.jp